

# AAINews

APPROPRIATE AGRICULTURE INTERNATIONAL CO., LTD.

国際耕種株式会社

〒194-0013 東京都町田市原町田 1-2-3 アーベイン平本 403

TEL/FAX: 042-725-6250

E-mail: aai@koushu.co.jp

## マラウイのアグロフォレストリー

マラウイ国シレ川中流域は、同国最大の都市ブランタイア市の北部に位置し、人口密度が高く、都市への薪炭材供給や耕作地の拡大により、森林面積の減少、農地の土壌流出及び生産性の低下が生じている。また、地下水の枯渇など、天然資源の劣化が顕在化しており、元来生活基盤の脆弱な地域住民は一層の貧困状態に置かれている。

こうした中で、今、アグロフォレストリーが注目されている。アグロフォレストリーは食糧作物の増産、林産物の生産・加工・販売による収入向上活動、薪炭材の供給による資源管理に直接結びついており、土壌肥沃土の改善効果、土壌保全及び保水機能回復ならびに地域経済の活性化効果等も併せて期待されている。日本政府はこれまでに「シレ川中流域森林復旧計画調査」を行い、村落天然資源管理計画を策定した。さらに、この計画を遂行するためにはパイロット事業が必須であるとし、昨年 10 月にパイロット事業のための事前調査が実施され、本調査に参加する機会を得た。

シレ川中流域周辺の研究機関においては、アグロフォレストリーに関して極めて積極的な取り組みが行われている。農業省傘下の試験場においては、アグロフォレストリーと組み合わせた不耕起栽培の導入試験等が実施されている。また、ICRAF (International Center for Research in AgroForestry) においては、数種類のマメ科の灌木を利用した実的な手法が確立されており、これらの手法は既に一般の生産農家に対して普及可能なレベルに達している。そして、Oxfam や USAID、EU といった NGO や援助機関の協力の下に普及活動が展開されている。しかしながら、現実にはこれらのアグロフォレストリー技術は、地域住民に対して効率的に普及されるに至っていない。

そこで、本事前調査においては仮想キャラクターを使った村おこしを中心に新しい普及方法の試みを提案している。本事業のニックネームについて現場で話し合っていた際、調査団の案内役を務めていた林業局のスタッフからミシレという名称が提案された。Middle Shire Rehabilitation から考えついた MISHIRERE であり、これは有名なニエレ大統領からも想像できるとおり、人の名前として使える。本事業においては「ミシレおじさん」を地域の篤農家のシンボルとして登場させ、村おこしのための一大キャンペーンをはる。ミシレおじさんは種子の配布もするし、学校に向いて苗畑建設の指導も行うし、婦人会に対して食品加工の指導も行う。特産物が出来ればミシレ・ブランド(ミシレ蜂蜜、ミシレ果汁)として販路の開拓にも貢献する。そうしたことで、仮想キャラクターのもとに住民の参加者意識を高め、オーナーシップを育成し、住民の合意のもとにひとつの流れを作り上げていくことが可能になり、このことは住民達の行動を広く社会的に認知させることにもつながるのではなかろうか。シレ川中流域における「ミシレおじさん」の活躍を祈りたい。

(シレ川のほとりで: 大沼)



ブランタイア郊外の天然林



住民との意見交換会



混植によるアグロフォレストリー